

災害と男女共同参画

3月11日に発生した東日本大震災により、多くの被災者が避難所や仮設住宅での不便な生活を強いられました。その中でも女性は、女性であるが故に特に困難な状況に置かれたことが明らかになりました。

今回は、12月4日に行われた男女共同参画セミナー「災害！その時女性たちは？～東日本大震災の経験から学ぶ～」の内容の一部を紹介し、災害時の女性への配慮、防災分野での女性の参画について考えます。

避難所での女性の現状

〈参考：「災害！その時女性たちは？～東日本大震災の経験から学ぶ～」〉

① DV 被害や性暴力被害

被災によるいじめや不満から、避難所や仮設住宅でのDV被害の相談が多くありました。また、レイプやセクハラなどの性暴力の被害に遭った例も報告されています。そのため、安心して避難所にいられず、損壊した家に戻ってしまう若い女性もいました。

② 着替えや授乳をするスペース、洗濯を干す場がない

女性が安心して着替えをする場所や下着などの洗濯物を干す場所に困ったという声がありました。また、授乳スペースがないため壁に向かって授乳をする多くの女性の姿が見受けられました。

③ 生理用品など女性に必要な物資が手に入りにくい

ミルクやオムツ、生理用品が不足していました。配給所に男性しかいない場合、下着や生理用品などが必要だと言いだしにくい環境にあったようです。

④ 男女別のトイレが無い

「男性と一緒に列を作ってトイレを待つのは恥ずかしい」、「電気が無く、夜は暗くて怖い」という理由からトイレを我慢する女性が多くいたようです。そのため、泌尿器関係の病気にかかってしまった女性もいました。

⑤ 性別役割分担が強調されてしまう

多くの避難所では、食事を作るのは女性の仕事とされました。特に仕事を持つ女性にとって、早朝から食事の支度をして仕事に行くのは大変な負担となったようです。

今こそ求められる女性の参画

避難所や仮設住宅の運営など災害・防災分野で、これまでリーダーシップを発揮してきたのは多くが男性でした。そのため、自然と女性の声は反映されにくかった現状があります。しかし、東日本大震災の経験を経て、災害・防災分野こそ女性が積極的に参画し、より生活者の視点に立った女性の意見やニーズを反映させる必要があることが再認識されました。

私たち一人一人が、災害時に女性が置かれがちな現状について正しく理解し、普段から地域や家庭で「男だから〇〇しなければ…」「女だから〇〇しなければ…」という性別役割分担意識にとらわれない考え方を持つことが大切です。

～積極的に育児を楽しむカッコいい男性～ 今月の“イクメン”パパ



はら ゆうすけ
原 優介さん親子

休日は、娘のおおいと一緒に洗濯物をたたんだり、洗い物を流しに運んだり、ママのお手伝いをしています。

片言の話を理解して会話することは大変ですが、たくさん娘と話をしたり、何かを一緒にしたりする時間を大切にしています。

平成24年度男女共同参画推進会議メンバー募集
～あなたのアイデアを事業の企画に生かしてみませんか～
「男のくせに…」 「女のくせに…」と言われて窮屈な思いをしたことはありませんか。

性別にかかわりなく、個性と能力を十分に発揮できる社会の実現があらためて今、求められています。

推進会議では、そんな社会の実現を目指して、市と市民が協働で講演会やセミナーなどの企画・運営をします。

男性の家庭参画や子育てなど男女共同参画に関するさまざまなテーマを取り上げて実施する事業に、ぜひあなたのアイデアを生かしてみませんか。

募集人数／15人程度

応募資格／市内在住在勤の方

内容(予定)／年9回程度(平日午前中)の会議や講演会・セミナーなどの企画・運営

応募締切／3月23日(金)

申込み・問合せ／人権・市民相談課へ直接または電話で